

---

# 骨董屋始めました

狗怨

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

骨董屋始めました

### 【コード】

N8932Z

### 【作者名】

狗怨

### 【あらすじ】

古びた骨董屋の少女と少し特殊な少年の物語です。  
よかったら読んでみてください。

## プロローグその1（前書き）

思いついたので書いてみました。

感想などありましたらドシドシ書いてください！！

## プロローグその1

あたり一帯には夕日が差し、辺りの家からは晩御飯の香りが漂い食欲をそそる。

道行く人々は買い物袋を下げた女性や友達と楽しそうに下校する子供たち。

そんな有触れた風景の中、少年は歩いていった。

外見は16歳程で顔立ちは整っている。

肩まで伸ばした黒髪は、伸ばしたというより切るのが面倒だったといった方が正しいだろう。

学校の制服であろうブレザーを着て商店街を歩いている。

そして、一つの肉屋の前で立ち止まった。

「すみませーん。モモ肉500gください」

「あいよ、いらっしやい！ってユリちゃんじゃない。今日はお使いかい？偉いねえ」

中から、まさしく肝玉母ちゃんと言う言葉を体現したような女性が出てきた。

「こんにちはおばさん。ていうか僕が一人暮らしなのは知ってるでしょ。あとユリちゃんっていうの止めてください。僕は顛菱袖雨てんびしゆ裏うらつて名前があるんですから」

「あつはつは！あきらめな！この商店街じゃあユリちゃんて定着してるよ。今更変えようだったって不可能さ」

「このあだ名を流した張本人のくせに・・・」

「おや、そうだったかい？まあいいじゃないか！それにユリちゃんだって昔は何も気にしちやいなかったじゃないかい」

「子供のころの話ですよ……。それより、モモ肉を500gぐださい」

「はいよ、今回はおまけしてあげる」

「いいんですか？」

「久しぶりにユリちゃんと会えたからね、いいってことさ」

「久しぶりに会うだけで無料になるなら今度からは間隔あけてこようかな」

「あっはっは！今回だけって言うてるだろう。次からはちゃんと金払ってもらおうよ」

「冗談です。それじゃ、有難う御座いました」

「またおいでねー」

## ブログその1（後書き）

いかがだったでしょうか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8932z/>

---

骨董屋始めました

2011年12月28日01時58分発行